

外国語学部

受 験 番 号								名 前

2 0 0 9 年 度 公 募 推 薦 入 学 試 験 S 日 程

小 論 文 (60分 100点)

[注 意 事 項]

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子(解答欄を含む)は3ページです。監督者の指示に従って確認して下さい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせて下さい。
4. 受験番号及び名前は所定欄に正確に記入して下さい。
5. この冊子は、監督者の指示により提出して下さい。

次の課題文を読んで、設問に答えなさい。

少女時代の5年間を過ごしたプラハから14歳の時に帰国した頃の頃、ひどくとまどったことがある。カルチャーショックというのだろうか、人間関係の保ち方というかコミュニケーションの取り方があまりにも違うのだ。

向こうにいるあいだは気付かなかったが、非常に人間関係が緊張していた。誰もが自分のことは徹底的に棚に上げて相手を批判したり攻撃したりする。自分の非は極力認めない。こういうの、日本では最も嫌われる性格なのだが、全員がそのように振る舞うのだから、性格というよりも文化の問題である。

その文化の中で、「謙虚なマリ」と呼ばれていた私も、帰国当初、編入した中学の学友たちに対して、ガンガン攻撃的な姿勢で押し通した。ところが手応えがまるで無い。最初の内は新入りの私に遠慮しているのかと思ったのだが、いつまで経ってもものれんに腕押し、糠に釘。誰も反撃してきてくれない。そうになると、かえって不安になってくる。

一年ほどかかってようやく欧米人の攻撃的物言いが、相手が反撃してくることを前提にして成り立っていることを思い知り、同時に日本的コミュニケーションのあり方も分かってきた。自分の言葉を相手がどう受け止めるかということまで思いやって日本人は言葉を選ぶ。なんて優しい偉大な民族なんだろう、すごい、と感動したものだ。

でも、しばらくすると、それは自分が傷つきたくないためでもあると気付いた。日本でもインターネットの掲示板がこれだけ流行るのは、そのせいだろう。匿名だと恐ろしく攻撃的になる。自分の顔と名前をさらすとなると、とたんに優しく丁寧になって、攻撃性を抑制する。これは結構怖い……………

米原万里（日経新聞“あすへの話題”2002.6.15）

(1) 欧米的コミュニケーションと日本的コミュニケーションのそれぞれの特色を、短所・長所がはっきりとわかるようにまとめなさい。

[illegible][illegible]

